

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	メディアアート		
英文授業科目名			
開講年度	2009年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	児玉 幸子、井口 壽乃		
居室	西6-411		

公開E-Mail	授業関連Webページ
iguchi@post.saitama-u.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>19世紀の写真術と映画術の発明以来、複製技術は人間の視覚を拡張し記憶や知覚と深く関わり、文化を形成する重要な要素として今日まで発展してきた。特にモダニズム期の作品は個人的な表現にとどまらず、報道や広告、プロパガンダなどの社会的局面においても重要な役割を果たしている。さらに今日のCGやVR技術は芸術表現にとりいれられ、新しい芸術表現が誕生している。本講義では、こうしたメディア・アートとされる芸術作品の歴史的展開について、歴史的、文化史的側面から総合的に分析・考察する力を養い、メディア・アート全体を理解することを目標とする。また、メディア・アートの世界的な現況についても学ぶ。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
教科書は特に指定しない。参考書は、随時、授業のなかで提示する。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【授業内容とその進め方】

授業では特に20世紀の作品を中心に扱う。毎回、具体的な作家と作品の映像資料を提示しつつ講義する。

第1回 ガイダンス：メディア・アートとは何か

第2回～3回 写真と映画誕生以前の視覚と初期映画

第4回～5回 近代テクノロジーと芸術作品：実験映画「カメラをもった男」「メトロポリス」ほか

第6回～7回 モダン・デザインとヴィジュアル・コミュニケーション：パウハウス他

第8回～9回 初期キネティック・アートとライト・アート

第10～11回 ヴィデオ・アートの誕生と発展

第12～13回 コンピュータ・グラフィックス作品にみる新しい表現

第14回 VR技術と芸術作品

第15回 メディア・アートをめぐる現況と課題

【授業時間外の学習（予習・復習等）】

日頃から、美術館や博物館等で開催される写真や映像、メディア・アートの展覧会にて実作品を鑑賞するようにしてください。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席度30%、中間の課題20%、最終テスト50%の総合点にて成績を評価します。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けませんので、電子メールでアポとって下さい。

【学生へのメッセージ】

本講義では、技術と芸術の融合の観点から、具体的な視覚芸術作品の分析と考察を行います。その際、諸作品を歴史的、文化史的文脈から考察し、芸術史総体のなかに位置づけたいと考えます。

【その他】

なし